

編集後記

アカデミック・ジャパニーズ・グループは、前年度に引き続き幹事の世代交代をはかっており、AJ ジャーナル第 4 号の編集委員・アドバイザーにも新たに若手幹事が加わった。また、前号同様、2 月の合同研究会での研究発表のフィードバックを踏まえた論考も投稿され、研究会での発表→投稿という循環が築かれつつある。

掲載された投稿は、研究論文・研究ノートに加え、アカデミック・ジャパニーズの現場の特徴を反映した多様な実践報告・調査報告からなっている。会員の興味関心の広がりや深まりを象徴する構成といえよう。

Web 媒体という特性上、AJ ジャーナルの記事は、会員非会員、国内国外の別を問わず、幅広い読者に、容易にかつ迅速にアクセスしてもらうことが可能だ。今回は投稿がなかったが、チャレンジ的な実践も、短信というカテゴリーで気軽に投稿できる。会員の皆様には、今後もぜひ積極的に新しい試みの報告を投稿していただきたい。また、非会員の読者の皆様には、Web ジャーナルを見て本研究会に興味を抱かれたならば、ぜひ定例研究会（例年 6 月、11 月、2 月の 3 回）にご参加いただき、意見や情報の交換の機会としていただきたい。

(編集委員長 Y.O. 記)

刊行：2012 年 6 月

編集委員 (*は委員長)・アドバイザー

石毛順子 (国際教養大学)・*大島弥生 (東京海洋大学)・小笠恵美子 (東海大学)・
影山陽子 (日本女子体育大学)・門倉正美 (横浜国立大学)・木下謙朗 (朝日大学)・
佐藤勢紀子 (東北大学)・佐藤正則 (早稲田大学)・清水まさ子 (国際交流基金)・
高橋薫 (東京大学)・武一美 (早稲田大学)・堀井恵子 (武蔵野大学)・
ボイクマン総子 (東京大学)

アドバイザー協力者

伊集院郁子 (東京外国語大学)・田中信之 (北陸大学)・
二通信子 (元東京大学)・村上康代 (早稲田大学)